

---

# 恋の結末。

遊樹野原凜之

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋の結末。

### 【Zコード】

N9136Y

### 【作者名】

遊樹野原凜之

### 【あらすじ】

7年間一緒にいた夕架と稜哉。稜哉に恋心なんて抱くはず無いと思っていた夕架は、ある日自分の気持ちに気づいて・・・?  
グダグダラブコメディ!

## 登場人物（前書き）

幼馴染どうしの、ラブコメディ……？な、グダグダな作品です！主人公も、親友も、全員変人です。

## 登場人物

### 登場人物

前川 夕架

主人公。青い四角眼鏡に、黒髪のセミロング。一見、真面目そうだが、実はめんべくさがりの変人第一号。オタク。稜哉の事が好き。

小川 稜哉

夕架の幼馴染。野球部で、丸坊主。顔はいい方。でも性格ゆえに、モテない。

佐藤 京

夕架の親友。絵を描くのが大好きで、将来の夢は漫画家。髪の毛はショートでボサボサ。常識人（？）で、ツツ「//」要員。でも時々ボケ。

オタクで、変人第二号。

中里 美穂

夕架の親友。天然で、可愛らしい子。黒髪の、肩までのばしたセミロング。

ボケ担当、たまにツツ「//」要員。変人第三号。

島田 雅

夕架の親友。お金大好きで、なんかありえない位変な子。セミロングで、ボケ要員。変人第四号。

池原 美沙  
いけはら みさ

夕架の親友。ほぼ雅のせいで、変人第五号になっちゃった子。ガリガリで、夕架にいつもおちょくられて、そのたびに追いかけてる。

ボケ担当。でも夕架にはツツ「ノリノリ」。

## 登場人物（後書き）

メインは、だいたいこの6人です。

「初投稿でオリジナル！？」というツッコミは無しでお願いします。  
ちなみに、サブキャラもいます！というより、サブキャラが大半です！

まあ、グダグダですが、宜しくお願い致します！

# プロローグ

時々、アイツの事を考える。

6

もちろん、冗談だ。でも雅が言つてマジっぽくて凄い怖い。

「で、何考えてたの？」

美沙が聞く。

「もやしの精霊に言う義務はない・・・ふがつ！」

「あははははあ？ 今なんて言つたあ、夕架くうん？」

美沙は凄いガリガリだ。なのであだ名は「もやし」〇〇「骸骨」つ

てなつてゐる。

しかし、本人は凄い嫌がつてゐるため、それを言うと・・・

この想像はお任せします。

変人ライフ

# これが僕らの日常

たぶん 雅か一番変わってる  
いや、絶対

以外)興味ない。

ましてや、恋話なんか、ありえない。

京なんか、自分のこと、俺、三つ言つてゐる。……僕もたゞど

でも、最近・・・

—また、稜哉の事考えてたー？

・・・・ツ！ 黙れ！」

僕は、恋をした。

一 またまたあー。

京と美沙がニヤニヤ笑つた。

「黙れ！ 何であのバカの事を俺が考えなきゃならん！」  
「とかいつて、そのバカを好きなのは何処の誰ですかあー」  
僕です。

でも、皆の前で認めるのは恥ずかしい。  
どうぞいい、そうじゃ?

かねた。そしてし。

「一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
」

逃げよ。

「え！？（京）」

## 「普通逃げる！？（雅）」

「待てええええええええええええええええ！」（美沙）

# 「夕架一！（美穂）」

笛の声が遠く聞こえ・・・

近く聞こえた。

後ろを見ると、美沙が猛スピードで追いかけてきていた。

2

・・・その後僕がどうなつたかは、この曲にお考え方下さい。

言つたのを忘れてた。

僕は  
・  
・  
・

馬鹿で、ナルシで、はげで、

顔（？）と運動神経だけはいい、

幼馴染が、

好きです。

『認めたあー（^へへ^）』  
『き、聞くなああああああああああああああーーー』

## プロローグ（後書き）

グダグダでスイマセン・・・  
呼んでくれた方、神です。そして、有り難う御座います。

ちなみに、主人公は自分のことを、心中では「僕」、喋る時は「俺」って言います。

あと、「あがあ」というのは、沖縄で「痛あ」っていう感じです。  
分からなかつた方、すいません。（作者が沖縄人なので。）

方向性が全く決まってません！  
でも、読んでくれると光栄です！  
宜しくお願ひします。

## 1・好きな理由

小川 稔哉。

僕の、好きな人。

性格は

最悪。凄い位最悪。

逆に尊敬する。

出しゃばり、ナルシスト、五月蠅い、馬鹿、ウザイし、好きな人がすぐ「口口口口変わる・・・他にもいろいろ。でもあげたらきりが無いから、この位にしておくね。

でも好き。理由?それは・・・根は優しいから。

『え?』

京達が声を揃えて言った。

「・・・たつた、それだけ?」

美穂が聞いてきた。

「うん、そうだけど?」

「え?だめだった?」

「・・・いや、正当な理由だよね。

「軽いなあー」

雅が呆れた様に言った。

「優しいからって・・・」

『ねえー。』

全員が雅に賛同した。

どこのオバサンだ、お前ら・・・つて、その前に！

「おい！軽いってどうこうだ！」

あのな！7年一緒にいたら分かるけど、あいつすっげえいい奴なん

たそ  
！  
？

そりや、文サインけど、でも正義感と責任感強くて、優しんたぞ、あいはー！

こいつ等の前で稜哉庇うとか、自殺行為だよ！――

急いで口をつぐんで、京達を見たら・・・

・  
・  
・  
遅かつた。

「い、今のは忘れる！無かつた」としててくれ！／＼／＼

あひて、夕架ちゃん 顔が赤いわよ、

自覚してゐよ!!

さつきから、顔に熱が集まりっぱなしだ。

あ  
し  
れ  
こ  
た  
い  
ね  
え  
り  
(  
京  
)

「忍のなまけ」（美妙）

「若いつていわねえ（美穂）」

ん？なんかお婆ちゃん混入してないか？

「うが、それより云々」

「いつ、どこで、誰が『大好き』って言ったああああああああああ

そりや大好きですけど！ そうですけど！

言つ必要無くね！？

「か  
感  
く  
な  
!」

取るかししたぞ！？

卷之三

「無心」

「無」無」

「一九三一」

ل ل ل ل ل ل ل ل ل ل ! ! !

勝手に書いた」と「するなああああああああああああああああああああ

・  
・  
・  
候が痛一。

でも、言つてないのに分かつたとか、この人たちエスペー！？

集  
言  
一

「夕架の心を皆でよんだんだ

京が言った。

なんか、嫌な予感がする。

何を?

・・・・・

「なんだよー！」

- さあ、

「彌日一命」  
（二二）

「ザーナもなああああああ

あああああああ！「

僕は叫んだ。

すると、雅がそれを見て言った。

「言わんと殺すよ？」

雅、笑顔だけどオーラが黒いよ・・・

「・・・つたあよ！」

言つしか、無いか・・・

「俺は、小川稜哉の事が・・・

大好きです・・・つ／＼／＼／＼

ああ、さらば愛しの大地よ・・・（キラキラ





『夕架死んだあ――――――』  
『起あらおおおおおおおおおおおおお――――――』

## 1・好きな理由（後書き）

とこづけで、照れ屋な夕架さんの話でした！  
なんか、京さんツツ「ミジやない・・・  
しかも、重要な稜哉さんもまだ出せてない・・・  
・・・グダグダですが、次は頑張りたいと思います！

## 2・気付いた日（前書き）

初、学校が舞台の話です。

（今までずっと京の家でした。）

ちなみに、京・雅・美沙・稜哉は、隣のクラスです。

あと、これは前回の前の日の話です。

## 2・気付いた日

これは、僕が稜哉への気持ちに気付いた時の話だ。

キーン、コーン、カーン、コーン。

一時限目が始まることを知らせる鐘が鳴った。

「正座！」

隣のクラスで、号令がかかつたらしい。

『はい。』

「はい！..

皆の声が揃つ中で、一つだけ、一際でかい声が聞こえた。

うるせえ～！

絶対、稜哉だ。

あんな声聞こえたら、やる気失せるよ・・・。

「正座ー。」

お、こいつでも号令がかかった。

「はー。」

そう返事しようとしたら、なぜかわつきの稜哉の声を思い出した。

そして・・・

『はい。』

「はいーー。」

・・・あいや？

なんで僕、稜哉級のでかい声、出したんだろう？

・・・わつきの事が妙に気になる。

こいつは、乙女の登場だ

「美穂ー。」

「何いーー？」

美穂が、こっちを見ずに応えた。

美穂は僕たちの中では・・・つてこいつより、クラス1乙女だ。

美穂なら、きっと分かる

「あのさー、わつき隣のクラスの号令が聞こえた時、稜哉の声が聞こえて、凄いやる気失ったんだけど、」

「うん」

僕の言葉を聞いた瞬間、美穂が振り返った。

・・・美穂、すごく目が輝いてるよ・・・

なんか察知でもしたんだろうか・・・

「でも、その後の俺らのクラスの号令の時、返事しようとしたら、

なせか利吉の戸思い出しへ  
てはこの戸思ひ出しが、一矢報うにと

「…そへが?」

・・・残念そうに聞き返さないでえー！

僕には凄い重要な事なんだよおー！

「うん、なんか気になつてさ。」

No. 100

何？」「誰？」

移説の声で  
元気もぐんぐんたみたした  
。。。

それがなんだ感じた

美穂はそれを聞くと、目を輝かせて、

本当に！？

と並んでいた。

「うん！」  
「…なんか、心当たりあんの？」  
「でも、それよりも、美穂の反応が気になる。  
…なんて感情の浮き沈みが激しいんだ、この人は

「それ、きっと、恋だよ。」

-  
h?  
[

ん？ は？ え？

この人、今凄い爆弾発言しながらたか！？

・・・悪いと罵も間違った！うん！

味しそうなモノに聞き違えただけ・・・

「だから、恋だってば！」

・・・。

「ナニソレ、タベモノデスカ。」

「違うよー。」

・・・聞き違いじゃありませんでした。

## 2・気付いた日（後書き）

・・・中途半端な所で終わっちゃいましたね・・・。  
一応、これから主人公が気付いていくと思います。

## 3、 気付いた日。 2

ありえない、ありえない！

僕が、稜哉を好きだなんて・・・

そう叫んだ。

「じゃあ、たとえば稜哉が他の女の子と仲良くしているの見て、どう思つ?」

美穂が満面の笑みで聞いてきた。

「俺とも喋つてくれつて、思つ・・・。」

一  
じやあ、  
稜哉が夕架の事無視したら?」

嫌ああああああああああああああああ

ああああああああああああああ！！

「・・・でしょ～？」

美穂がドヤ顔で聞いてきた。

あの後僕は、美穂に質問攻めにされ、出た結果が・・・

「俺、思いつきり好きやん、稜哉の事・・・」

といふことだつた。

今考えてみれば、全部「好き」という気持ちの表れだ。  
しかも、この嫉妬（？）やモヤモヤした気持ちは、小学校4年から  
続いている。

僕は今、小学校6年だ。

と、いふことは。

「2年間、好きやんけ・・・」

我ながら思つが、長い！！

スッゴク長い！！

恋愛小説みたいだよね・・・

「うん、嫌だ！」

「何で好きなのに拒否するのー？」

美穂が驚いたように言った。

「それは、嫌だからだよ、美穂！」

「理由になつてない！…」  
・・・怒られちゃいました

まあ、これが、稜哉への気持ちに気付いた日。  
・・・気付かなかつた自分、馬鹿だよね。

『馬鹿だ』  
『黙れ！！』  
『自分で言つたんだうづがー！』

### 3、気付いた日。2（後書き）

「めんなさい、短いです・・・。

グダグダですが、感想などがありましたら、宜しくお願ひ致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9136y/>

---

恋の結末。

2011年11月30日20時53分発行